

町指定文化財

13 紙本著色 てい かん ず 帝鑑の図



帝鑑図は、中国の帝王の行跡を描いたもので、近世初期に狩野派の好画題となって、内裏城郭の障壁画などに描かれました。本図は「海北」白文長方印と「松雪」朱文円印が捺されており、一隻のみ現存する。狩野派の帝鑑図の作画の成立に関わる貴重な作で、桃山時代末期から江戸時代初期頃の制作と推察されます。